最も聖なる葉（バハオラの娘、バヒヤ・カヌーン）

ひるの星

No.　250

もくじ

バヒヤ・カヌーンの言葉……2
バヒヤ・カヌーンの物語……3
クイズ……9
ぬり絵……10
めいそう……11
工作……12
みんなの写真……13
保護者のページ……14

おお、楽園の葉よ！

世界が愛するお方から

贈られる祝福に、

いつも感謝を

唱えなさい。

バヒヤ・カヌーン

バヒヤ・カヌーンの物語

ある日の午後、お母さんが洗濯物をたたんでいると、モナが学校から帰って来ました。

「お母さん、学校から帰って来る道でホームレスの男の人が座っていたのよ。私はその人がとても気の毒で、どうしたらいいか少し考えたの。そして、自動販売機を見つけて、その人のために何か身体に良い飲み物を買ったの。それから、その男の人の前でちょっと立ち止まって、それを地面に置いてね、カバンの中の何かを探すふりをして、その飲み物をそこに置き忘れたかのようにして立ち去ったのよ。もっと何かしてあげたかったけど、私の様な子供が大人の男の人を手助けするのは生意気に思えて、それしかできなかったのよ。お母さんどう思う？」

「それでいいんじゃない？バヒヤ・カヌーンの精神的な子孫のようなことをしたのね。」

「子孫？それじゃ、バヒヤ・カヌーンは俺たちの親せきなの？」と二人の会話を聞いていたアスマがまさかというような顔をしてたずねました。

「ねえ、バヒヤ・カヌーンって一体誰なの？」とシャラが更にたずねました。

「その名前って、聞いたことがあるけど、親せきのおばさんか何かなの？」とリアズが口をはさみました。

「あっ、思い出した。」とモナが言いました。「バヒヤ・カヌーンってバハオラの娘さんだ。」

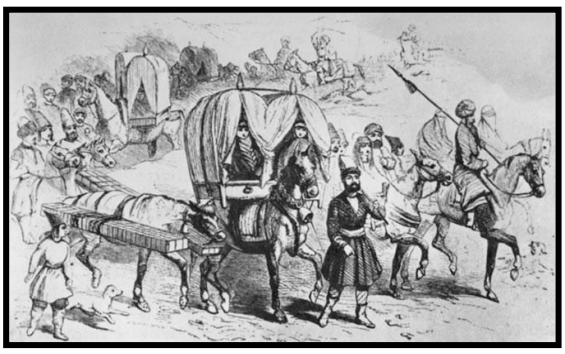
「わーっ、俺たちはバハオラの親せきなんだ！」とリアズがびっくりして跳び上がりました。

お母さんが吹き出して笑いながら言いました。「みんな落ち着いて。ごめん、混乱させちゃって。私が言いたかったのは精神的なつながりのことなのよ。親切さと気前の良さで似ていて、モナはバヒヤ・カヌーンのようだという意味なのよ。」

「バハオラには娘さんがいたのね？」とシャラが驚いたように言いました。「ということは、彼女はアブドル・バハのきょうだいになるわけ？お母さん？」

「そうよ、シャラ。彼女はアブドル・バハの妹なの。」とお母さんが説明しました。「バヒヤは神の栄光に包まれている人という意味なのよ。バヒヤは両親と兄のアブドル・バハそれから弟のミディとペルシャ(今のイラン)のテヘラン市に住んでいました。その家は美しい装飾でいっぱいでした。彼女がまだ６才の幼い子供の頃、バブに従っていた、たくさんのバビ教徒が捕えられて殺されていました。バブに従っていたバハオラもペルシャ政府に捕えられてシヤ・チャールという、ひどい地下の牢獄に入れられました。人々は彼らの美しい家にやって来て家の中にある物をことごとく壊したり盗んだりしました。バハオラの奥さんであるナヴァブは三人の子供を連れて市のどこかに

隠れました。彼らが子供に危害を加えるのではないかと心配したからでした。」
「意地悪な人たちね。」とシャラが腹立たしそうに言いました。「どうしてそんなことするの？」
「誰かがバビ教徒はみんな王様を殺そうとしていると嘘をついたからなのよ。それを聞いた人々がバビ教徒やその家族を襲ってきたのよ。」
「ベイビー　きょ　と？どんな赤ちゃんなの？」とアニサがたずねたので、
みんなは笑ってしまいました。
「赤ちゃんのベイビーじゃなく、バビ教徒とはバブの教えに従う人たちのことだよ。」とリアズが笑いながら答えました。お母さんが話を続けました。
「バハオラは何か月も暗くて臭いシヤ・チャールという牢獄に閉じ込められました。バハオラの首には重い鎖がかけられました。牢獄から出された時は、それが原因で歩くことが出来ないほどでした。それから家族みんなと多くのバビ教徒はペルシャからバクダッドへ追放されました。真冬の雪をかぶった山々を越えなければなりませんでした。女、子供は馬の背のホダという、かごに乗って行きました。それはとても寒くて、きびしい旅でした。みんな充分な洋服を持たずにいました。」



「かわいそうに。」とシャラがため息をつきました。モナとアニサもため息をつきました。
「一行は３か月もかかって、やっとバクダッドにたどり着きました。それからそこで安らかな数年が過ぎました。その頃バヒヤとアブドル・バハはお母さんのお手伝いをよくしました。バヒヤはたった７才なのに、大人でも大変な井戸の水汲みと、それを家まで運ぶのをよく手伝いました。」それからお母さんがみんなにたずねました。「ところでサモヴァーって何か知っている？」
「それは、きれいなお茶の釜なんでしょう？お母さん？」と物知りのモナが言いました。
お母さんが微笑みながら答えました。「そうね、きれいだけど、とても背が高くて重い釜なのよ。ある時、一人の婦人がバハオラを訪ねて来ました。バヒヤはその重いサモヴァーを、お客のいる二階まで運んで、お茶をつくってクリスタルグラスに入れて、そのお客に差し出しました。その婦人が帰った後、バハオラは娘のバヒヤに微笑みながら、その婦人がバハイになったことを伝えました。それというのもバヒヤのそのもてなしのおかげだということでした。バヒヤはいつも家族の手伝いを一生懸命しました。バハオラが山にこもられた２年間は特にそうでした。その頃、バヒヤはハビバチというアラブ人の女の

子と親しい友達でした。その名は『愛される人』と言う意味でした。その当時、女の子は読み書きを習わなくて、それは男の子だけのものでした。でも、バハオラは御自分の娘には習わせておられました。バヒヤはハビバチに読み書きを教えていました。バヒヤはバクダッドのこの友達と離れることになっても、生涯彼女のことを忘れることはありませんでした。」

「そうだね、バハオラとその家族はバクダッドから遠く離れた牢獄都市のアッカに追放されたもんね。」とアスマが言いました。お母さんが話を続けました。

「悲しいわね。本当に。その頃、バヒヤは美しい若い婦人になって、バヒヤ・カヌーンと呼ばれるようになっていました。カヌーンとは婦人と言う意味です。

バハオラの家族はいつもバクダッドの金持ちも貧乏人もアラブ人、ペルシャ人、ユダヤ人、キリスト教徒と誰かれ問わず手助けしました。非情な統治者は人々がバハオラを好きになるのをとても恐れていました。とうとうバハオラと聖なる家族はイスラエルのパレスチナにある牢獄都市アッカへと追放されることになりました。バクダッドの誰もが、このことをとても残念に思い、もちろんハビバチも親しい友達のバヒヤ・カヌーンと別れるのをとても悲しみました。」

「ほんの若い女性がそんな牢獄に送られるなんて、何とひどいことでしょう！」とモナが言うと、他の子供たちもうなずきました。

「アブドル・バハだって、その頃はほんの若者だったんだろう。」とリアズが言いました。

「牢獄は女だけが大変だったわけではないだろう。」

「すべてのバハイの友にとっても大変でした。その友はただ平和を願って、人々に幸せになってもらおうとしていただけなのに。」とお母さんが続けました。「一行は地中海の荒波をほんの小さな船で渡らなければなりませんでした。バヒヤ・カヌーンはのどの渇きと空腹で病気になりました。

一行がやっとアッカに着くと、そこに待ち受けていたのは一行に向かって怒って叫んでいる人々でした。というのもバハイは悪い人たちだと聞かされていたからでした。人々はまだバハイの友に会ったこともないのに嫌っていたのでした。ひどい匂いが漂う牢獄都市に入るとバヒヤ・カヌーンは気を失って牢獄に運び込まれました。そんな所でしたから、気を失っているのに、彼女には濁った臭い水しか与えられませんでした。」

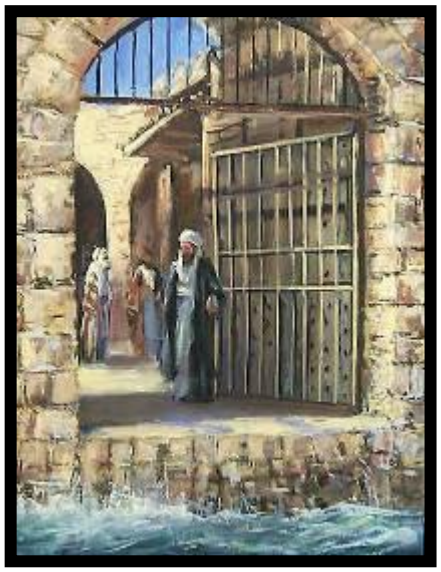
「ワオ、それはひどい。バヒヤ・カヌーンはどうしてそんな目に会わなければならないの？」とモナが言いました。お母さんが微笑みながら続けました。

「何年か後にバヒヤ・カヌーンは巡礼者にこの頃のことを思い出して話しました。こんな

ひどいことがあっても、みんなとても喜びに満ちていたそうです。みんな神に祈って、喜びの歌を歌っていたそうです。それはいつもバハオラと一緒にいる喜びがあったからでした。でもアブドル・バハからの忠告で牢番を刺激させないように、大きな音を立てないように気をつけていたそうです。嬉しさとか悲しさも、その環境に左右されるのではなく、私たちの心の持ち方なのね。」とお母さんが諭すように言いました。

「そんなひどいところで自分が嬉しくなるなんて出来ないな。」とリアズが言いました。

「神様を信じて、いつも神様が一緒にいらっしゃると思えば、何が起きてもがまん出来て、幸せに感じると思うな。そうすれば全てはうまくといくと思うよ。」とアスマが知ったかぶりをして言いました。



「その牢獄にいるとき、大変悲しいことが起きました。バヒヤ・カヌーンの弟ミディが、ある日牢の屋根から落ちてしまいました。屋根の上でお祈りをしていて足を滑らして明かり窓から落ちたのでした。怪我がひどくて、次の日には亡くなってしまいました。」

「あーあ、」と子供たちみんな、ため息をつきました。

「バハオラはみんなに、『ミディの魂は苦痛と悲しみから解放された。ミディの犠牲のおかげでこの牢の門は開かれる。』と言われました。」

「ええ！それで本当にそうなったの？」とシャラがたずねました。

「そうね、ミルザ・ミディ(ミディ氏という意味)が亡くなって数か月の後にはバハオラの家族は牢から解放されて牢獄都市の一軒の家に移されました。

それは『アブドの家』と呼ばれています。でも、まだみんな囚人のままです。牢獄都市から離れることはできませんが牢にいたときよりは、ずっと快適になりました。」

「良かったね！」と子供たちがみんなで嬉しそうに言いました。

「バヒヤ・カヌーンはその家でとても忙しくなりました。毎日アッカの女性や子供が彼女のアドバイスや手助けを求めてやって来たからです。みんな彼女

が大好きでした。みんな彼女が結婚して、家族を持つようにと望んでいました。しかし彼女は結婚せずに、たくさんの人に奉仕したいとバハオラに言っていました。その通り生涯をすべての人々に捧げました。彼女はいつもみんなに十分食べ物があるかどうか心配しました。第一次世界大戦のときに何百人もの人々に食事を準備しました。その人たちはどこからも食料を手に入れることが出来なかったからでした。バヒヤ・カヌーンはアッカの人々だけでなく、遠い外国からバハオラやアブドル・バハを訪ねて来る人たちの世話をしました。誰もが彼女をとても好きになりました。バハオラは彼女のその奉仕を称えて「最も聖なる葉」と呼ばれました。バハオラは聖なる家族の男性は木の枝に、女性は葉にたとえられました。

バヒヤ・カヌーンはその生涯でバハイ信教にとって非常に大事な仕事をされました。バヒヤ・カヌーンはその大事な仕事の秘密を守りました。」

「その秘密って何？」と子供たちみんなが知りたがりました。

「バヒヤ・カヌーンが子供の頃バブが殉教されました。バブの敵は人々が見つけないようにバブの死体をゴミ捨て場の穴に捨てました。しかしバハイの友は密かにその死体を拾って、お棺に入れて隠しました。このお棺はバブの敵に見つけられないように密かにアッカに運ばれていました。バヒヤ・カヌーンはしばしば何時間も彼女の部屋で静かに座って、その部屋の一角に向かってお祈りをしていました。誰もその一角に大変な秘密があるなんて想像も出来なかったでしょう。」

「わかった！わかった！」とシャラが叫びました。「バブのお棺がそこに隠されていたのね！お母さん！」

「本当？」とリアズが言いました。「部屋にお棺を隠しているなんて、ちょっと気味が悪いな。」

「リアズ！何を言っているの、もったいない！」とモナがたしなめるように言いました。

「そうだよ。バヒヤ・カヌーンの部屋は聖なるお社と思えば、気味が悪くなんかないだろう。」とアスマが言いました。それでも未だリアズは納得しない様子でした。お母さんが笑って言いました。「あなたが大人になったら、イスラエルに行って、バヒヤ・カヌーンの部屋とバブのお社を見て、どんな気持ちになるか確かめるといいわね。」

アブドル・バハもバヒヤ・カヌーンもかなり年取った頃、アブドル・バハがカルメル山にバブの社を建立されました。そこにバブが遺されたものが安全に保管されました。今日このお社に毎年何千もの人々が訪れてお祈りしています。これもバヒヤ・カヌーンのおかげです。」

「バハオラが亡くなられて何年も後に、アブドル・バハが次の世に旅立たれました。バヒヤ・カヌーンはショーギ・エフェンディを支えて、引き続きバハイの友の面倒を見られ

ました。」
「ショギ。。。。エフェンヂって？？」とアニサが発音に気をつけながら、たずねました。「それって、誰のこと？」
お母さんが眉を上げて大きく見開いた目でみんなを見回しました。
「守護者よ。アブドル・バハが亡くなられた後、世界中のバハイの世話をされたお方よ。」とモナが答えました。「アブドル・バハのお孫さんだよ。」とアスマが付け加えました。お母さんが話を続けました。
「彼女はショーギ・エフェンディを手伝って、いつも世界中のバハイの友を励ます手紙を出すのに忙しくしていました。その他、守護者がするものはなんでも手伝いました。彼女は近所の人でも誰でも、あらゆる人を手伝いました。彼女が亡くなると、その碑がバハイの庭園に建てられました。今日、世界中の人々がそこを訪れて、お祈りを捧げています。さて、というわけで彼女の親切さと気前の良さがモナのそれに似ているから、モナはバヒヤ・カヌーンの精神的な子孫だと私は言いたかったのよ。」
「これって、本当に長いお話だったな！たったそれだけのことを言いたかったにしては！」とリアズが減らず口で言いました。
「リアズ！」と他の４人がそれをたしなめるように叫びました。そして「楽しかったよ！」と口をそろえて言いました。
「まあ、まあ、みんな落ち着いて。お話が長かったから、みんな急いで宿題に取りかかりなさい。」とお母さんが言うと。。。
「あれ、次のお話はしないの、お母さん。」とリアズが今度は意地悪そうに笑いながら言いました。リアズは宿題から逃げようとしていました。

「自分が出来ることをやり遂げた時、それがほんのささやかな奉仕でも必ず神様の目にとまると分かれば、この世のどんな面倒なことでも、なんで悲しむことがあろうか。」
バヒヤ・カヌーン

＊アッカとバヒヤ・カヌーンの美しい絵はスティーヴン・パーシャル氏が描かれて、{ひるの星} のために提供されました。
＊バヒヤ・カヌーンのさらなる素晴らしいお話はジャクリーン・メヘラビ著の「最も聖なる葉の物語」にあります。是非お読みください。

クイズ

１．モナは、ホームレスの男の人にどんな親切なことをしましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

２．バヒヤ・カヌーンのお父様は誰ですか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

３．どこでバヒヤ・カヌーンはお生まれになりましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

４．なぜバヒヤ・カヌーンの家族はペルシャを去らなければなりませんでしたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

５．どこへ行かされましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

６．バクダッドで数年過ごした後どこへ行かされましたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

７．アッカはどんな所でしたか、良いところでしたか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

８．ミルザ・ミディは誰ですか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

９．バヒヤ・カヌーンは彼女の部屋にどんな大きな秘密を守っていましたか。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

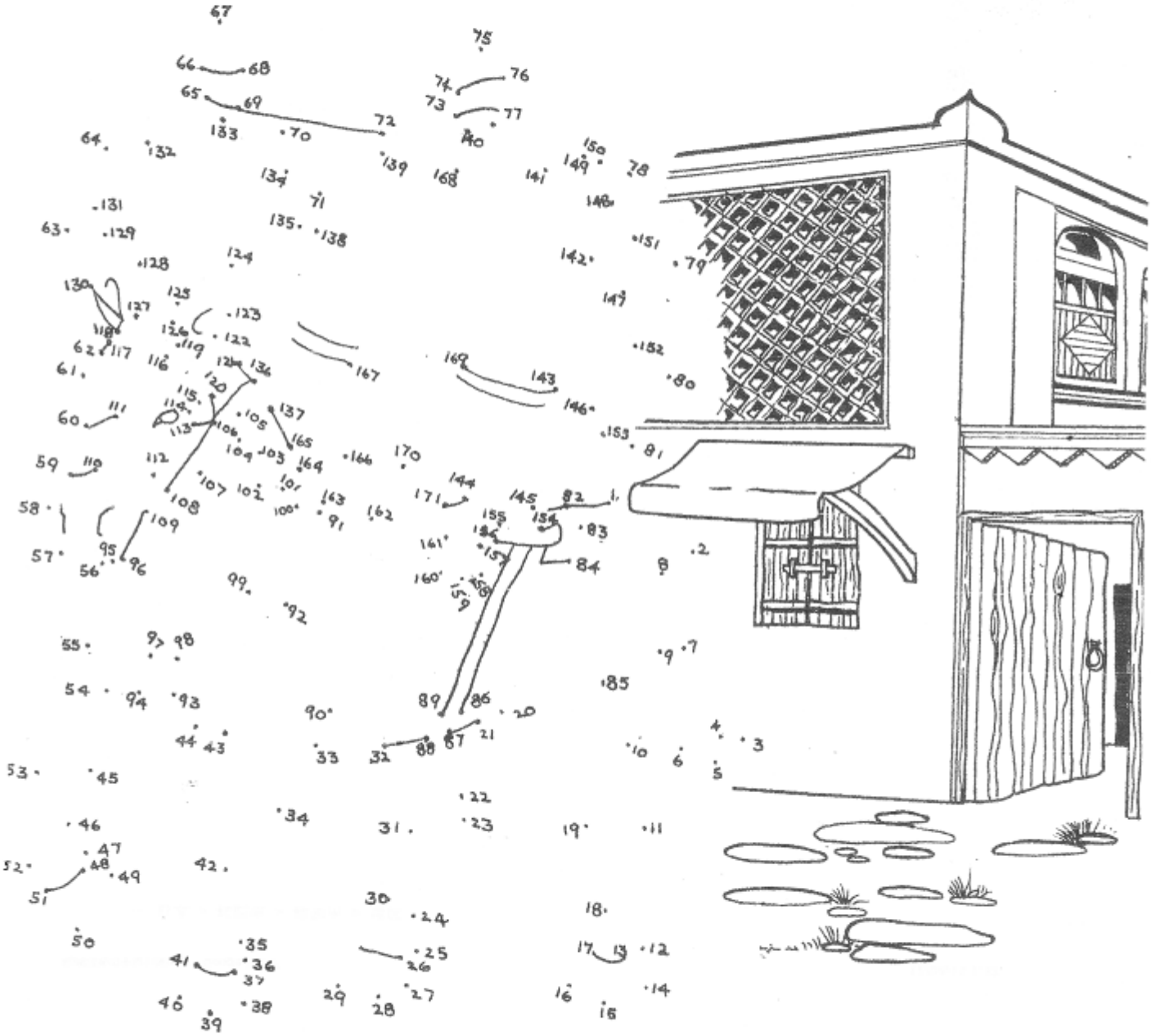
どうでしたか？全部答えられましたか

答えは保護者のページのお話のあとにあります。

ぬり絵

1から171まで点をつないでみましょう。どんな絵が出て来るかな？

バヒヤ・カヌーンが旅をした時に使ったものになりましたか？
ぬり絵してみましょう。



TRUTHFULNESS

Now it is time for us to take a special journey to help us remember what we have learned so far. First, let's prepare for our journey. Close your eyes and be still. Take a deep breath, hold it, and blow it out. Do it one more time. Squeeze your arms, and let them loose. Squeeze your legs, then let them loose.

You are playing outside when your mother tells you to come and meet a special visitor. you go to the door and find a magical friend. This friend talks directly to your heart. It is a special friend, who reminds you that everyone is special. This friend will be with you on your shoulder all day. Everywhere you go, the friend will remind you not to laugh when someone falls down. The friend reminds you to clap when someone does a good job, and to smile at people. The special friend also lets you know when you are doing well, encouraging you as you go. But most of all your friend reminds you to be truthful.

You see someone who looks very different from you. You smile and say hello. Next, you see that a child is crying, you reach out your hand to help. This child is very polite, and now you have made a new friend. This makes you so happy.

You go home. And mother is asking you who ate the last cookie. She sounds upset, but your special friend reminds you about being honest. You tell your mother that it was you. Your mother smiles and says, "thank you for being truthful." You decide the next time you want a cookie, you will ask. Your special friend smiles at you, so very proud.

When you open your eyes, the special friend will become invisible, but you will still be able to feel guided every day.

さあ、これからすてきな旅に出ましょう。先に準備をしましょう。目を閉じて。気を静めて。息をすって、はいて。もう一度すって、はいて。腕をぎゅっとして、力をぬいて。足をぎゅっとして、力をぬいて。

あなたは外で遊んでいます。そこであなたの母はあなたに新しい特別な友達を紹介しました。この特別な友達は魔法の友達で、あなたの心にちょくせつ話すのです。この友達はみんなの特別さを教えてくれます。この友達はあなたのかたに乗り一緒にどこでも行きます。こけたひとをバカにしない事とか、がんばる人を応援する事などを教えてくれます。そしてもちろん、あなたに対してもこの特別な友達はきちんとほめてくれます。特にあなたが正直な気持ちで他の人を扱う時。

自分と見かけが全く違う人を見てあなたは素直に微笑みあいさつをします。泣いていて困っている子を見てあなたは手を差し伸べます。その子はとても礼儀正しい子であなたたちはすぐに友達になれました。

あなたはとても嬉しい気持ちになって家に帰ります。でもお母さんは少しおこっているみたい。最後のクッキーを誰が食べたのですか？と聞かれドキッとします。でもあなたの特別なお友達があなたに正直に答えるようにと言います。自分が食べたことをきちんとお母さんに言います。そしたらお母さんは正直に答えてくれてありがとう、と微笑んでくれました。あなたは思います、今度からはクッキーを勝手に取らず、先に聞いてから食べよう。自分は正直な方がいいと感じるのです。特別な友達もとても喜んでいるみたい。

あなたが目を開けるとき、この魔法の友達は透明になります。でも心の中でいつも導いてくれるとやくそくをしてくれます。
用意ができたら目をあけてください。

～正直～

CD ケース・ステンド・グラス

材料

*透明な CD ケース

*下絵（車とか花など自分の好きな絵）

*黒、金銀などのマニキュアで細筆付き（下絵の輪郭）

*金銀などのマニキュアで細筆付き（額縁）

*マニキュア落とし液（消しゴムの代わり）

*色マジック・マーカー

*バハイ引用文

*テープ，紙クリップ

作り方

1. 透明な CD ケースの裏に下絵をテープで貼りつける。
2. 表に黒、金銀などのマニキュアで下絵の輪郭を描く。
3. 下絵をはがして、裏に絵の輪郭からはみ出さないように色マジックで色塗りをする。
4. 表の縁に金銀などのマニキュアで額縁らしい飾りを描く。
5. 裏に同じサイズの紙に書いた引用文をテープで貼りつける。
6. 裏に紙クリップをテープで貼りつけて壁に飾る。

スプリング・スクール

保護者のページ

今回は奉仕をテーマにしました。次のいくつかの引用文から奉仕について瞑想しましょう。そして子供たちに神を知り、神を崇拝し、その教えに従って人類奉仕をするのが、人生の目的であることをしっかりと思い起こさせましょう。私たちが日々の生活で何かを決断する時は必ず「この決断が奉仕の道を歩むのか、そうでないのか？」を基準にして決めるべきです。

「今日、人類への奉仕に身を捧げる人こそ、真の人間である」　　バハオラ　「バハオラの書簡」

「信仰は慈悲深き神の確かな援助を引きよせる磁石である。奉仕は聖なる力を惹きつける磁石となる。我は汝らがこの両方を達成するよう願う。」　アブドル・バハ　「アブドル・バハの書簡」

「この虐げられし僕は、奉仕するよう、日夜、人々を励ましている。」
アブドル・バハ　「アブドル・バハの遺訓」

「精神世界で奉仕につながることと、神に喜ばれる行いをすること以上に偉大なものはない。したがってあなたの心が神の王国へと向けられ、あなたの意図が純粋で誠実であるように、あなたの目的が自分自身の福利ではなく他の人の利益を目指すものであるよう、いや、むしろ、あなたの意図のすべてを人類の福利に集中させるように、そして、人類に身を捧げる道にあなたを犠牲にするよう、我は願っている。」　アブドル・バハ　「聖なる生き方」

「奉仕は祈りである。」アブドル・バハ　「パリの講話集」

そして、最後は、バヒヤ・カヌーンのへりくだった一言。

「自分が出来ることをやり遂げた時、それがほんのささやかな奉仕でも必ず神様の目にとまると分かれば、この世のどんな面倒なことでも、悲しむことがあろうか。」　　バヒヤ・カヌーン

クイズの答え

１）身体に良い飲み物を買ってあげて、その男の人の座っている前に置いた。２）バハオラ。３）ペルシャ（今のイラン）のテヘラン市。４）バブの教えに従い追放されたから。５）バクダッド。６）イスラエルのパレスチナにある牢獄都市アッカ。７）汚くて臭い所。８）バヒヤ・カヌーンの弟。９）バブのご遺体をおさめたお棺を隠していた。

皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ
いいお話、又は写真などがあれば、送ってください。
vb7mb7@bma.biglobe.ne.jp に送ってください。

ひるの星

Ｎｏ．250

2012 年 6 月発行

ひるの星をカラー印刷するには以下のリンクにアクセスしてください。

http://www.bahaijpn.com/daystar.htm

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿７丁目２番１３号

電話：03-3209-7521　ＦＡＸ：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、原奈緒、エダナ・アルマンザ

協力

物語：平原ルアナ、

和訳：平原静志、

写真：尊田望

絵：スティヴン・パシャル、平原ルアナ、

テクニカル・アドバイザー：尊田望

監修：平野祐一